■ WBEM とは / Scripting Eye for the GUI Guy / Microsoft

・http://technet.microsoft.com/ja-jp/scriptcenter/ff575750
・ファイル名を指定して実行 --> wbemtest.exe
・Windows Management Instrumentation テスト
・WMI リポジトリの内容を掘り下げ、スクリプトで使用できる機能を推測できます。
・root\default
・root\CIMV2
・詳しくは、DMTF の Web サイト (英語)
　・Distributed Management Task Force
　・http://www.dmtf.org/

WMI スクリプトはリモート コンピュータへのアクセスに分散 COM (DCOM) プロトコルを使用します。DCOM には、多数の構成オプションが含まれ、これらの 1 つである偽装レベルが WMI スクリプトを実行するセキュリティ資格情報を DCOM が使用する方法を決定します。［偽装する］オプションの偽装レベルは、WMI スクリプトにとってほとんど常に適切な選択肢です。これより低い設定の［識別する］オプションではスクリプトがあまり有効な作業ができず、高い設定である［委任する］オプションでは、スクリプトの実行に関連する各ユーザーとコンピュータに対して Active Directory の構成を変更する必要があります。

■ VMWare ESXi で WBEM を試す / When the rain falls silver

・http://www.fortunerinn.org/blog/2010/09/3659

ports にあった wbemcli を使って色々試している

ecn(Enmumelate Class Name) でクラスの一覧を列挙

```
# wbemcli ecn -nl -noverify 'https://root@esxhost:5989/root/cimv2'
```

gc(get class) でクラス情報を取得。gcd(get class definition) なら定義が取れる。

```
# wbemcli gci -noverify -nl "https://root@esxhost/root/cimv2:CIM_Processor"
```

クラス名を指定して、ei(enumarate instances) で値がとれた。返答を見るにここは CIM ではなく OEM_Processor を指定するほうがいいらしい。

```
# wbemcli ei -nl -noverify "https://root@esxhost/root/cimv2:CIM_Processor"
```

それにしても色々と見えていない。まあこんなものか。

ei(enumarate instance) でプロパティまで指定すれば、とりあえずピンポイントの値まで取れるようだ。

```
# wbemcli ei -noverify "https://root@esxhost/root/cimv2:OMC_Processor" ElementName
```